

基本的なアクションを概念なるコマンドで発行すると、文脈処理が具体的な、適切なアクションを選択して、言葉を表出する・・・というようなことを語りました。「あいさつする」とコマンドを発行したら、「朝、起きて初めてあった人」が文脈なのか、「お昼に道であった人」が文脈なのか、「ご飯を食べるとき」というのが文脈なのかと問うことになりま

す。ある程度これは自動的なプロセスで実現されていると。特に、翻訳の時には、この文脈処理が重要です。

そこで、文脈処理ですが、これはもう重み付投票の連想関係を概念間にネットワークとして張って、実現するしかないでしょう。順序とか、場所、時間の関係として、一つの文脈（ステージ）の概念の中で、重み付ネットワークが張られる。それで、行動を決定していくことになります。

考えて行くほどに、「概念」というものの重要さが際立ってきています。オブジェクト指向の行き着く先は、人工知能の「概念」というものになるのでしょうか。色々な「概念」が想像できますが、その配置は脳の研究と一緒に見出していくことになるのでしょうか。オートロジーを種にして、「概念」という実がなる。そんな感じです。

おわり